



日本

ハンザキ研究所ニュース 2012(6) : 通巻 No. 78

発行2012年6月30日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

URL: http://www.hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

ヤマセミのペアリングなる！

平成17年に仲の良いペアーが校舎を中心に飛び回っていた。その内の一羽しか見かけないなと思っていたら、平成19年5月にササ藪の中に死体を見つけた（ハンザキ研ニュース16号参照）。それからずっと一羽であった。ただし、平成21年7月に三羽で三角関係のバトル、同年12月に二羽、22年2月二羽、23年4・5月にも二羽を確認してきたがペアー形成には至らなかった。それが、今年の3月から二羽を再々見かけるようになり、とうとう今月にペアリングできたようだ。校舎の二階の手すりに止まって求愛のディスプレイを行っていた（写真1）。手すりを横跳びにとびつつ「ジュルルルー！ジュルルルー！」と何ともいい難い鳴き方をしながらメスに近寄っていく。一羽のときには窓ガラスに映った自分自身に飛びかかっていたりする。

校庭に一步足を踏み出したとたんに「キッキキッ」と鋭い鳴き声を残して飛び去ってしまう。実に目が良くて、たいていはヤマセミに先に気づかれてしまう。平成17年に見ていたペアーは一緒に同じ方向へ飛んでいたのだが、今回のペアーは別々の方向へ飛び去ることが多いのが気になる。繁殖期は4～6月とあるので、ギリギリ間に合ったのだろうかと思う。それにしても5年間の一羽暮らしで良く頑張ったものだ。

首の辺りが茶褐色に汚れているので食べた魚の血がついたのかと思ったら、オスの斑紋なのだそう。ずっと独り身で縄張りを守っていたのはオスだったようである。それにしても7年間も顔を合わせているのに、まるっきり慣れようとしない野性には感心するのみだ。変な闖入者（私？）さえいなければ静かに暮らしていたのにと恨まれているのかもしれない。



ヤマセミ接写2メートル



写真1 ヤマセミのディスプレイ (左側がオス)

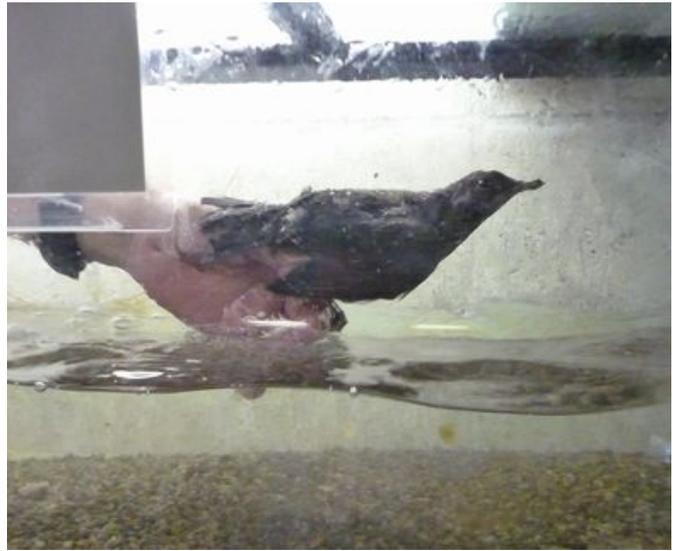


写真2 カワガラス



写真3 植物標本作り



写真4 巣穴のエンビ溶接



写真5 可動型巣穴 (河川内)



写真6 気象観測用のラジオゾンデ



写真7 建屋小学校1・2年生の餌やり体験



写真8 アカネズミのトラップ in



写真9 禁漁区の一時的変更



写真10 日本工科専門学校生の実習



写真11 安威川ダム建設予定地の視察



写真12 緑陰にはキリが最適だ

可動型ハンザキ人工巢穴

河川内のどのような場所が繁殖に適しているのか、飼育プール内でも同じような考えのもとに実験を開始した。移動できる人工巢穴は広島市安佐動物公園のオオサンショウウオチームの成功があるので、それを参考にして2基を作成した。河川内に設置したのは、壊れかかっている吉原堰の下流側だ。ここは、以前に堰からの水路内で2匹のメスが放卵していた場所で、壊れかかったコンクリート構造物の隙間はハンザキ達のよい隠れ家にもなっている場所である。流されないようにワイヤーでガードレールにつないだが、大水で流れてきた木材によって横倒しになった。ワイヤーを2本にして固定を強化した。

プール内では繁殖の兆候が見られない。横を流れる河川では産卵しており、その水を使っている飼育なのに、日照時間も同じなのになぜなのだろうか。日本産もハイブリッドも数年間の飼育にもかかわらず性的な活性化が見られない。飼育密度が高すぎるのか繁殖のための個室がないからなのかといろいろ考えるのだが、とりあえず今年は個室を数の少なくなったハンザキの区画に設置してみた。もっともこのハンザキは河川工事の間隔離飼育中に四肢を咬み切られたり、腹部にコブができたりで原状復帰が遅れている4匹であるので、繁殖には不適かもしれない。次年度には野外から一時的にオスとメスを繁殖目的で導入してみたいと考えている。

プール内の巢は毎朝の見回り時に利用しているかどうか観察をしているが直径60㎝という巢のサイズが個体の全長に対しては狭すぎるようだ。巢をあまり大きくすると移動させるのに無理が出てくるし難しいところでもある。

.....

ハンザキの巢穴の改造

塩化ビニールのパイプを半分に切って塩ビの板に針金で固定した出石川方式は大きな欠点があった(当ニュース 43, 48 参照)。ニジマスの養殖池やプールなどに大量のハンザキを収容するためには多くの個室が必要になる。コンクリート製のU字溝を使ったり塩ビのパイプを縦に半分にカットしてハンザキの体にぴったりとした穴蔵を提供してやらねばならない。入ったのに出られなくなって溺死したり腕を挟まれて身動きできなくなったりした事例を確認した。これは、入るときには無理矢理に入るが、底板をたわませて入ったものの、体が挟まれて出ることができなくなったり、四肢がパイプと底板との隙間に入ってしまい身動きできなくなったの事故であった。すぐに針金を除去して、半割パイプをU字溝の重しで押さえて並べることにした。しかし、1か所に何個体も潜り込もうとしたりするので、パイプ・ハウスがひっくり返ってしまう。

30年ぶりくらいで塩ビの溶接をすることにした。底板とパイプを溶接することでしっかりと穴蔵を固定することにしたのである。水族館の飼育係時代以来の久しぶりの作業であったが、何でも経験しておくとは後日役に立つものだ(写真4参照)。

ハンザキ所長の自慢話①

竹下景子さんからの便り

「念願の姫路市立水族館を見学してきました」という大変嬉しい葉書が女優の竹下景子さんから届きました。姫路における公演の合間をぬってのことだそうです。NPOのスタッフに自慢話として披露したところ「なんで所長が竹下さんと関係があるのですか？」という疑問を投げかけられました。まったく別の世界にあることなのでもっともな質問であると思いました。私が竹下さんにお会いしたのは10年も前のことです。島根県立宍道湖自然館の開館1周年記念のイベントとして“竹下景子さんと環境を語る”というフォーラムが行われた時です。私は姫路市立水族館と宍道湖の館長を兼任しておりコーディネーターとして、パネラーには竹下さんの他にシンジコハゼの発見者である越川敏樹先生（現在の宍道湖の館長）や山陰中央新報の会長が壇上にありました。イベントは竹下さん人気で多くの参会者もあり上々の出来であったと思います。

竹下さんはバードウォッチングが趣味だとのことで、翌日には宍道湖畔にある水鳥観察施設のホシザキグリーンパークの見学を希望されました。松江から湖畔を走る一畑電鉄で30分間、朝日に輝くヨシを眺めつついろいろお話をしました。多分、その時に姫路市立水族館の自慢話をしたのでしょう。それを10年もたった今年に、覚えていてくださって見学をしてきたという便りだったのです。たった一度の出会いでしたが、年賀状を頂いたり、ハンザキ研ニュースをお送りしたりというだけの関係です。しかし、こんなエピソードで竹下景子さんの人柄、人気の続くことが分かるのではないのでしょうか。

.....

気象庁からのプレゼント

当地のキノコの調査を本格的に続けている横山了爾先生たちが、山の中で気象庁のラベルが付いた物体（写真6）をお土産に帰ってきました。拾った人は気象庁に連絡してくださいということが書かれていたので電話しました。「けがや物損はありませんでしたか？」というのが担当の方の第一声でした。この物体は島根県の松江気象台から出された気象観測用のラジオゾンデということです。上空の気温や雲の様子などを刻々と電波で知らせるものだそうです。

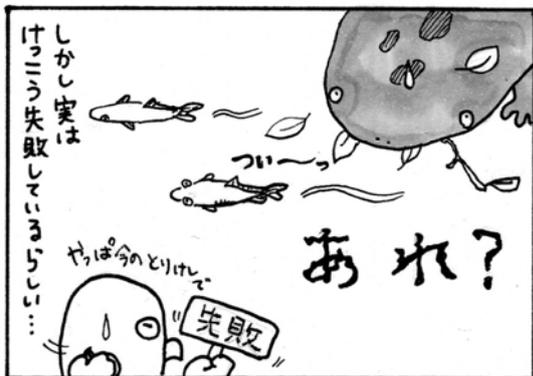
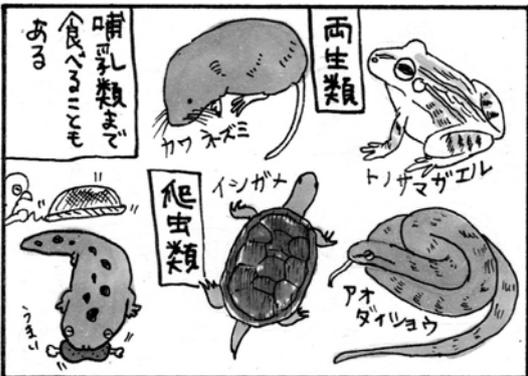
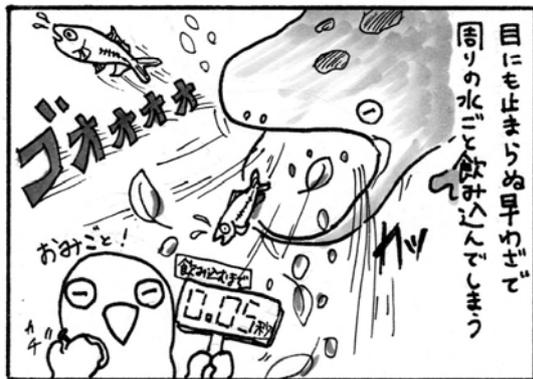
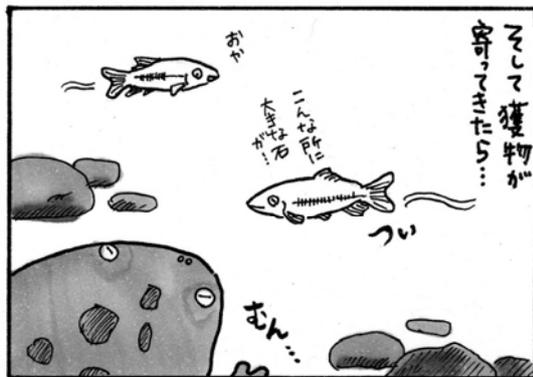
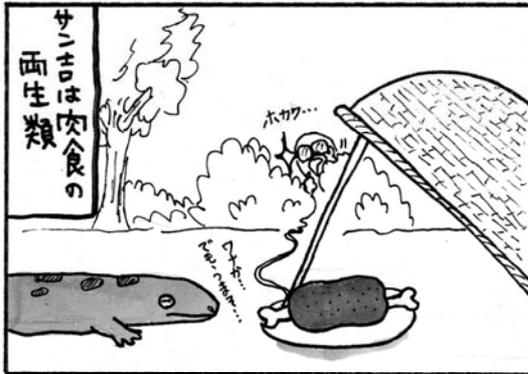
最近の天気予報はほとんど正確なものになっているようです。よく当たるなという感想と共に、翌日の気温までも報じてくれることには驚いていたところです。しかし、このような多くの風船に観測機器を付けて全国の気象台から天空高く発せられているということを知り、これが予報の正確さを高めていることがわかりました。基本的には、産業廃棄物の処理ということで気象庁に送り返すことになっているそうですが、頂けるということでハンザキ研の展示物としておくことにしました。それにしても、乾電池を入れ替えれば再使用できると思うのですが、もったいないなという気持ちが残ります。



その7 食性



その8 捕食



サン吉: オオサンショウウオ
川にすむ王様である



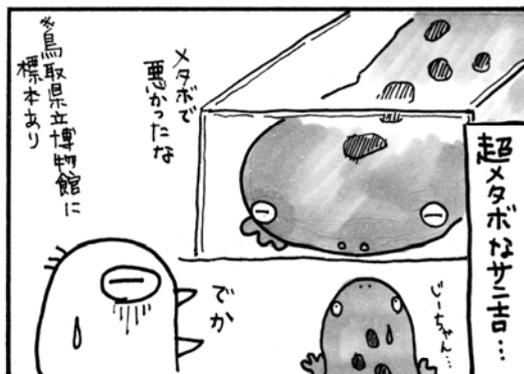
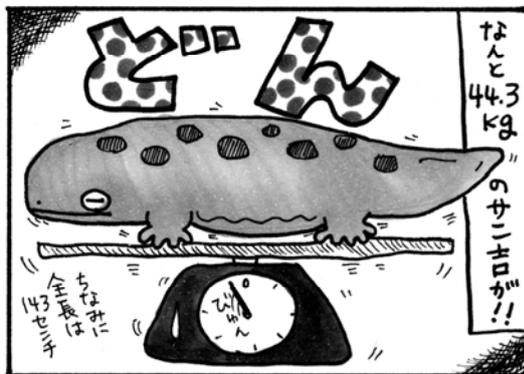
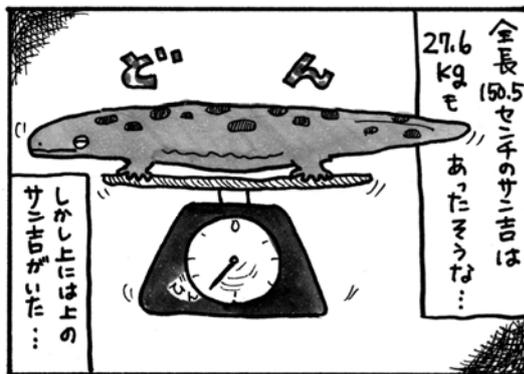
トリ子: トリ聖宇宙人
地球を征服すべくサンの生命かをさらっている



その9 寿命



その10 体重



サン吉: オオサンショウウオ川にすむ王様である



トリ子: トリ型宇宙人地球を征服するべくオオサンショウウオの生命をさがしている

ハンザキ研日誌

2012年6月

- 3日 ・鳥類調査でカワガラス 3羽に標識(脇坂英弥標識協会員ほか)
・久しぶりにアカネズミ出現、この冬は姿を見せなかったのだが
- 4日 安威川ダム建設所より事前説明に
- 5日 ・ヤマセミ 2羽ペアなる?
・キノコ調査(横山了爾兵庫県生物学会顧問ほか)
- 7日 “トライやるウィーク”で香寺中学校 2年生 6名ほか
- 8日 梅雨入り
- 9日 天王プロジェクト 11名見学に (栗栖和道さんほか)
- 10日 ・前田常雄兵庫県生物学会副会長ほか 5名見学に
・事務局会議 11名
- 14日 大阪府安威川ダム建設環境委員会、現地視察
- 15日 市川漁協から禁漁区の一時的変更の相談
- 16日 植物観察会 (前田常雄講師ほか 10名参加)
- 19日 台風4号で大雨増水
- 21日 台風5号くずれの大雨増水
- 23日 ・ボランティア作業 23名
・可動型ハンザキ巣穴 2基納入
・日本工科専門学校生実習 (ポンプ・ピットの浚渫など)
- 28日 養父市立建屋小学校 1・2年生 11名、引率 2名見学に
- 29日 キノコ調査 (横山了爾先生他 5名参加)
- 30日 兵庫県立大学・太田英利先生ほか視察に

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

あせっています。9月の下旬になってようやく6月号を校了しました。3月分も遅延していることとなりますが、花粉症に悩まされつつ夏バテにもあったようで頭の中がボォッとしているのです。頭が冴えている時には、一晩で8ページを仕上げたこともありますので何とか生き物の活動が盛んなうちに追い付きたいと思うのですが、目下はスランプのようで、もうしばらくはお待ちください。愛ちゃんの“サン吉よんこま”漫画でページを埋めさせていただきました。

写真の説明が不足で分かりにくいかと思います。カワガラスを水槽に漬けてみたら見事な銀色に、水を寄せ付けない羽毛の存在がよくわかりました。建屋小学校の1・2年生の見学は秋に劇化されるそうです。多自然型河川工事の先鞭を付けた建屋川(たきのやがわ)のほとりにある学校です。キリの緑陰は最高です。